



昨年春に加盟したばかり…

北摂“快進撃”の秘密

北摂シニア・後藤能己監督に聞く

モノマネ獎勵

快進撃めざましい北摂を率いる後藤能己監督

北摂シニアの活躍がめざましい。7月の大阪西成会長旗杯1年生大会優勝を皮切りに、8月の寝屋川市長杯(3年生大会)優勝、9月の秋季大会北大阪予選一位通過、10月の本大会では強豪・泉州野球を破り、そして11月の三田市総体1年生生大会も優勝。昨年春に加盟したチームが、なぜ急に強くなつたのか。秘訣はあるのか。後藤能己監督(39)が挙げる4つのポイントとは…。

□ 意識が大切
技術面の向上は、個人をやれ』と言つていま

の能力もあるから簡単に『意識してやることも『意識してやることも『やれ』と言つていま

す。あいさつする、一生懸命走る、バントの時はバントを目の高さに構える…。これらは意識すればできることです。たとえばアッパーイングの子は『大根切り』の意識でやれば、ちょうどいいくらいになる。小学校以来しみついたスタイルは、こういう真逆の

す。井端(中日)がうまくて、井端(中日)がうまい選手は墨上に出ても力がいい。動きにムダがないから美しく見えるんです。井端(中日)がうまいと思うのなら、徹底的にそれをマネればいい。立ち居るまいからアレ

一まで、実際にどのような動きをしているのか、観察力を養ってほしいの『意識』と『観察』。取り立てて変わったことではないが、選手の目線でわかりやすく説明しているのが伝わってくる。さらに、後藤監督が挙げたのは1期生(3年生)のこと。「すごいままじめな選手ばかりで、練習でもいっさい手を抜かず、一生懸命やっていた。そのいい点を後輩が受け継ぎ、噂を聞いた子どもたちが入ってきて、また同じようにやってくれている」。歴史は浅いが『良き伝統』ができるつあるという北摂シニア。どこまで伸びていくのか、今後に注目だ。

「意識」と「観察」をわかりやすく伝える

やり方でないと直りません。

頭で野球を見る

やり方でないと直りません。
頭で野球を見る

プロ野球でも高校野球でも、とにかく試合を見なさい、と。その時、單に『すごいな』ではなく、配球や作戦など、自分ならどうするか、監督になつたつもりで考えながら観戦しろ、と言つてゐるんです。

三位一体

僕らシニアリーグが一生懸命に野球ができる環境を整えてあげた『い』という理念のもとで協会、保護者、指導者がみんな同じ方向を向いて頑張っていることです。そして若いコーチが上手に選手を指導してくれて、いい。きつい僕とソフトなコーチが、うまく機能していると思います。

一番大きいのは、桑嶋邦育会長の『子どもたちが一生懸命に野球ができる